



## 交流が連鎖反応したしたウルトラ田植え7



よくもまあ7年も続いたものだ、という感慨を込めて名付けた『ウルトラ田植え7』。マンネリのジリ貧に陥ることもなく、6月10日に集いし花の香仲間は実に111名。苗の生育と時期がリンクせず、またしてもなかなか田植え（ほぼ植えつけが終了した田の一角でのミニ体験）となってしまったが、ゲスト炎衆北斗（小学生ユニット）による歌と踊りをBGMに参加者一同田植え体験を楽しんだ。宴も少しバージョンアップ。鷲山邸に自生する野の花を食材にしたり（ワイルドだねえ）、鷲山主宰独唱の「ふるさと」を聴いたり、テーブル毎に「洗い姫」を選出したうえでゲーム形式の片付けを行うなど、運営もひと皮むけた感じだった。

陽気な演奏会で南米の楽器、チャフチャス（山羊の爪）を鳴らす新潟大深澤副学長が、ひと言自慢で自己紹介すれば、数人が新潟の話題で共感したり、広げたりと有益な情報交換があつという間に成り立つなど、ひとと人との交流にある種の連鎖反応が生まれたようだ。次回の花の香関連事業に、あなたも是非参加して、この反応を体感してほしい。



エディブル・フラワー（食べられる花）  
フェイジョアや紫陽花も食材に。



### ◇花の香楽会スケジュール◇

よりディープに農業体験したい方は、8月26日田んぼの草取り。

9月30日（日）は、第2楽章稲刈り「7起8起で稲刈ろう！」。

以外にも世話人の思いつきでいろんなイベントに協賛しちゃうかも？

### 「希望の森づくり」に花の香もちょっぴり協力

去る6月2日、掛川市大浜地区で行われた森の防波堤づくりのための広葉樹の苗木15,500本植林事業に、花の香の世話人も数人参加しました。主催の「時ノ寿の森クラブ」とは協力関係にあります。

参加総数は実に1400人にのぼるなど、花の香楽会としても見習うべきところ大のプロジェクトです。

### 楽会は今年も「あこがれ先生プロジェクト」に協賛します♡

中村文昭氏のプロデュースによる「元気な先生応援」企画が今年も開かれます。楽会のモットー「世の中楽しく」を実現させるには教育もまた楽しくなくっちゃ。8月18日（土）午後1時30分から菊川文化会館アエルに全国で活躍中の輝いている先生方を招き、静岡の先生や私たち地域人にエールを贈ります。

詳細はHPで。<http://akogare-sensei.com> 参加費1,000円。





## 稲の根交流で友好の根支えます

またまたまたしても『なんちゃって』になってしまった花の香稲刈り。でも、開催意義は深いものがありました。それがミニ国際交流。

台風17号が東海地方に迫るなか、73人の参加を得て楽しく『七起八起で稲刈ろう！』が開けました。

不規則な雨の間をぬっての体験&宴でした。みなさん無事に家へ帰りつけたでしょうか？

毎回多彩なゲストで宴が盛り上がりませんが、ジャンベ（民族楽器）とアコースティックギター&ボーカルの2人組Ray needsの楽曲はまるで花の香オーダーのように場にぴったりフィットしていました。お馴染み中溝ひろみさんの清涼感ある美声は、雨音にすらマッチして台風直前の荒天もなにか宴の演出のようでした。思い切っって参加したみなさん、お得でしたね。



背景の漢詩は三国志、曹操の詩。酒への想いが綴られており、宴の際みなで愛唱した。

### 『国際色豊かなお客様方。花の香は国際交流の根っこ活動』

中国から3人、台湾から1人、インドネシア1人と鷺山主宰の人脈もあっていつも国際ゲストが来場して下さいます。

このうち南京師範大学教授の林東坡（りん・とうは）さんは、音楽を教えていることもあり、得意の二胡でJPOP演奏を軽やかに披露してくれました。「前夜は余興で北国の春中国語版を歌われたとか。ここでもぜひ！」という司会のムチャぶりにも笑顔で応え澄んだ美声を聴かせてくださいました。

最近外交が、ちとキナクさいけど、ここ花の香では根っこの部分で多彩な国のひとたちと交流できてる真の外交チャンネルです。



### もっと広げよう国際交流の輪♡

あなたは郷土の偉人・松本亀次郎をご存じだろうか？花の香の活動舞台、土方（ひじかた）出身で、中国からの留学生周恩来らに日本語を指導した方。後の日中交流の礎を築いた。

鷺山主宰は、この秋立ち上がる『松本亀次郎記念日中友好国際交流の会』の発起人でもある。

花の香活動を通じ、理屈ではなく、肌で友好を深めてきた鷺山主宰をあなたも支えてほしい。

詳しくは、文化会館シオーネ隣、大東図書館『松本亀次郎コーナー』を訪ねてみよう！！



### 第3楽章の「花の香仕込みと蔵見学」は、来年2月の2(土)3(日)

手塩にかけた酒米が『花の香』に変身する場に立ち会う第3楽章は、平成25年2月3日早朝に行われます。前夜の2日（土）は鷺山邸での恒例夜鍋談義。上記のようにゲストの多彩さがハンパない本会だけに、この一夜は複数の講演会聴講に匹敵する価値あり。アカデミカル・ナイトに参加ご希望の方は、次号のお知らせを待って。



### 第3楽章

## 花の香活動の芯！「2/2.3」仕込みに参加しませんか？

十分に実った『誉富士(酒米)』を芯の部分までそぎ落として最終的な『花の香』に仕上げる過程において、芯のパートがこの、「仕込み作業」です。すなわち酒造りを語るうえでぜひとも抑えておきたい胆、なわけです。

それだけに酒蔵の本音としては、作業効率的にも衛生面でも、また企業秘密の観点からも見学者にウロウロしてほしくない現場。なのですが、花の香は「モノづくりの原点への参画」が活動の芯なので、ここだけは外せないポイントでもあります。

そんな場を下記のとおり今回もご用意しました。以上の背景から先着20名程度募集します。未体験のあなた、ぜひご応募を！



真冬の早朝、凜と澄んだ空気のなかで仕込み体験。(めったにできませんよ)

### 【ご案内 & 参加者募集】

## 第3楽章 「語りあい、仕込み見学を通じて体験も仕上げへ！」

と き：平成25年2月2日(土) 13:00 鷺山邸集合。土井酒造酒蔵見学と利き酒+夜の語り合い。

3日(日) 早朝6:30、酒蔵にて仕込み見学と体験。朝食後解散。

ところ：鷺山邸へ集合(掛川市上土方4番地)『なお、お車で来られた方は近くのJA遠州夢咲土方支店茶工場(掛川市上土方108)の駐車場に駐車し、徒歩で鷺山邸にしてください』古民家で鍋を囲みつつ「前年花の香利き酒・語り合い」+鷺山邸泊、早朝、車にて土井酒造へ移動。※サプライズなおお客様のディープな業界話が聴けるかも？ま、あくまで未定ですけど(笑)

人 数：申込み先着20名程度(宿泊スペースの関係上。オーバー分は要相談)

参加費：4,000円(貸し布団・夕朝食・利き酒込み)

申込み：1月24日(木)までに酒のすぎむら宛てに電話かFAXでお申し込みを。先着20名程度。

※参加が確定した方にはメールまたはFAXにてお知らせします。申込書の備考欄にご希望の連絡方法を確実にご記入ください。



前夜の「夜の語り合い」

### ☆【予告編】陶酔の七宝宴☆

3月24日(日)・土井酒造にて!

陶酔の宴もいよいよ7回目。恒例と言っていい回数を重ねてまいりました。宝のような交流機会のある席、という事で題名も『七宝宴(しっぽうえん)』と銘打たせていただきました。

いちはやく日程を調整して、たくさんの語らえる朋友をつくる場にぜひ、ご参加ください。詳細は次回通信で!!

Cut

花の香楽会2012【第3楽章】夜の語らい～花の香仕込み体験【申込書】

申込日：平成25年1月24日(木)まで。先着20名様。

◆申込み/何でもあり酒屋「酒のすぎむら」FAX0537-72-4990

氏名	電話	備考

※3日朝6時30分に土井酒造に直接来られる方の仕込み見学は可です。

(問)「酒のすぎむら」TEL0537-72-2575





## 3/24日) 陶酔の七宝宴』で絆を再確認しましょう(\*。\*)

今年もまた3.11が巡ってきます。花の香楽会の活動以来、この3月はモノづくり体験の「打上げ」として『陶酔の宴』を開いてきましたが、一昨年は大震災で自粛し、昨年再開しました。

この再開宴から催しのとらえ方が少し変わった気がします。1年というサイクルを酒米の育成に乗せた花の香活動を通じ、より「当たり前」のありがたさを実感できるようになりました。楽しむことは大切で、その基本を踏まえつつ、大勢の仲間とまた春を迎えられた喜びと絆を再確認する。最終楽章『七宝宴(しっぽうえん)』は、そんな場にしたいと思います。別紙案内をぜひ、まだ宴未体験の会員各位のおともだちにも広めてください。宴の胆である「新たな出逢い」が宝物のように輝きますように。



毎春大勢が集う (2012.3)

## 第3楽章「語りあい、仕込み見学」は前夜が大盛り上がり!



ハイテンション・ナイト^^

2月2日鷲山邸での『夜の語り合い』と翌3日早朝の仕込み見学はいずれも盛況のうちに催されました。

とりわけ、前夜祭的ムードの『語り合い』では、初参加のピアニストが楽しい演奏で場を盛り上げるなど、充実したひとときとなりました。

なんて通り一遍の文章では、その盛り上がりの熱さをお伝えするべくもないので、未体験の方は、次回にはぜひ真冬の古民家のハイテンションナイトを味わってください。2枚ほどのスナップにて少しでも伝われば?

### ■テンホールズハーモニカ・コンサート」in 菊川赤レンガ倉庫 4/7(日)14:00~

花の香楽会でもおなじみの波木克己さんのハーモニカコンサートが菊川市赤レンガ倉庫にて開かれます。チケット2000円で飲み物付。

取り壊し寸前の赤レンガを私財を投じて維持しているNPO法人菊川まちなかいきいき倶楽部。心意気の応援のため、ぜひ足をお運びください。

(問)0537-28-8535 (土・日のみ)



凛とした早朝の空気!

仕込みが楽しい

### 【花の香短信】

3/23(土)10:00~

『津波から命を守る「森の防波堤づくり」掛川市沖之須』へぜひ!

●会場=沖之須砂防林(国道150号B&G体育館南)

時ノ寿の森クラブ(花の香楽会協賛団体)ほか主催の砂防林への植樹会へあなたも参加してみませんか?

申し込み不要です。持ち物は帽子、タオル、軍手、園芸用小スコップ、水筒、雨具。

植樹本数は9,000本。

(問)掛川市役所地域支援課

TEL 0537-21-1120





◆**陶酔の宴 7回目だけに進化と品 7 (ひんしつ) にこだわり**◆



いきなり裏ばなしです。3月24日、土井酒造で催された『陶酔の宴・七宝宴』。席上、新酒の出来栄について、中嶋世話人から「私からはお酒の味については申し上げません！ただ言えるのは、毎回良い出来なのですが、今回も非常に良い出来でした！」とごく控えめな報告ぶりでした。が、内輪では、そうとう自信があるオーラ全開で、誉富士 100 巻版『開運花の香』第3弾にして、味の面でひとつ進化した手ごたえを感じたようでした。事実、150名という集った仲間からも「今までで一番好きな味」「上出来」との声しきり。都合で宴に来られなかったあなた！最寄りの取扱店へ  
 GO！！

**心も満腹のアトラクション演奏会**

いつもより早めの桜が宴を盛り上げ、恒例の演奏会も大満足な内容。Rayneeds の即興『花の香テーマソング』披露や、この日限定のジャズユニット The Seventh Memory (マリア・ロウルデス歌・佐藤伸行ピアノ・岩間 学ベース) によるまさかのジャズ演歌なども飛び出し、会場はかつてないいいムード。やっぱり新酒蔵出しは華やいだ雰囲気最高なんです。

以前震災支援チャリティ・コンサートを花の香主催で行いましたが、花の香アーティストはますます充実してきました。



♡2013 年度会員登録手続きのお願い♡

会費は年度更新です。情報紙の発送や会員情報管理のための費用に充てられます。同封の『登録用紙』に必要事項をご記入のうえお申し込みください。

【花の香 2013 日程】

◇新年度スケジュール帳にマークお願いします◇

- ◎第一楽章 田植え「末に広がれ！田植え八」  
 6月9日(日) 11:00~かごのはな北側の田んぼ
- ◎第二楽章 初夏から秋への除草作業「本気で酒米、育て米か」  
 5月26日・6月30日・8月25日・9月22日いずれも日曜10時
- ◎第三楽章 稲刈り「8っと稲刈り！実り祝」  
 9月29日(日) 11:00~ かごのはな北側の田んぼ
- ◎第四楽章 花の香の仕込み・蔵見学「仕込み8 熟せ8 楽しみ夜」  
 2014 (H26) 2月1日(土) ~2日(日) 鷲山邸+土井酒造
- ◎最終楽章 蔵出しと新酒を味わう「陶酔の宴 8・末広がり縁」  
 2014 (H26) 3月23日(日) 11:00~ 土井酒造場

花の香グルメ=パンジーの天ぷら

何でも食べちゃう宴のメニュー。今回のお勧めは食用花パンジー。花の香活動ってサバイバルにも適していたりして???





# 銘酒「花の香」最高の出来

## 掛川でお披露目会



花の香は、同大の元学長鷺山恭彦氏(同市上土方)の祖先が蔵元で、遠州一円に名をはせたと言われる。鷺山氏は2007年に銘酒復活を目指してプロジェクトを立ち上げ、同楽会を設立。開運で知られる土井酒造場の協力を得て130年ぶりによみがえらせた。鷺山氏の呼び掛けを桜をめでながら銘酒を堪能する参加者(掛川市小貫の土井酒造場)

# 自然な味わい際立つ

明治初期に姿を消した掛川市土方地区の銘酒花の香が復活して7年。今年の新酒をお披露目する「陶酔の宴(うたげ)」(花の香楽会主催)が24日、同市小貫の土井酒造場で開かれた。地元ファンや復活に携わった東京学芸大の学生ら約150人が舌鼓を打った。

受けた同大の学生が当初から田植えや除草、仕込みなど年間の活動に協力し、今季も東京から貸し切りバスで駆け付けて一般会員と作業に汗を流した。

土井酒造場の土井清悳社長によると、天候に恵まれた今年の花の香は自然な味わいが引き立ち最高の出来。参加者は桜の咲く野外会場に集まり、会員有志が用意した山菜料理などとともに酒を堪能し、ジャズも楽しんだ。

## 定演で美し

掛川少年少女合唱団は24日、26期生の定期



## 掛川・土井酒造場

掛川市の幻の美酒「花の香」を復活させて地域おこしに取り組む市民プロジェクト「花の香楽会」(主宰、鷺山恭彦・前東京学芸大学長)の新酒蔵出しが二十四日、同市小貫の土井酒造場であった。県内外から訪れた会員約百二十人が宴で新酒を味わった。楽会は二〇〇六年から活動を始め、蔵出しは七回目。会員が栽培

## 幻の美酒 蔵出し



幻の美酒「花の香」を味わい、新酒の完成を祝う会員ら(掛川市で)

した静岡生まれの酒米 宴では、会員らが野「誉富士」を使って、趣に富んだ地産地消の同酒造場で一月中旬に料理をさかんに、香り仕込み、一升瓶二千本 高い新酒を堪能。シャ分が仕上がった。ズ演奏などもあった。

## 静岡生まれの酒米で仕込み

杜氏の榛葉農さんは「誉富士の良さが前面に表れ、今年も上出来です」と話していた。花の香は、明治時代に「遠州の銘酒」と呼ばれながら姿を消したが、鷺山さんの呼び掛けで〇七年に復活。最近では定着し、通年で問い合わせがあるという。七二〇ミリリットル五百円、一・八リットル二千円などがあり、問い合わせは酒のすきむら(電話0537(72)2575)へ。(佐野太郎)

△電0537(74)2006へ。